

2023 年度 建国高等学校 学校評価

1 めざす学校像

1. 教育方針
- 韓日、アジア、世界で活躍する子どもたちが育つ学校を目指す。
 - 本校の建学精神と教育理念を学校関係者・生徒・保護者に伝え、教育目標がより高い次元で実現できるように協力体制を整える。

2 中期的目標

1. 学習
- 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を養う。
 - 学ぶこと・働くことの意義を理解し、キャリアの視点を取り入れ、具体的な進路選択につなげる。
 - 生徒一人ひとりにとって個別最適な学習を目標にかかげ、教育環境・教材を整え、教員の授業の研鑽を図る。
2. 学校生活
- 多言語教育の推進とともに多様なルーツを持つ生徒一人ひとりが、互いを尊重し、社会の変化に対応できる資質・能力・創造性の伸長を目指す。
 - クラブ活動や生徒会活動・学校行事等を通して、主体性と協調性を培い、社会に貢献する姿勢を養う。
 - スクールカウンセラーを活用し、生徒の悩みに対応する。
3. 学校環境
- 一人一台のクロームブックを使用し、ICT 教育環境の常時充実を図る。
 - 学習環境を整え、清潔で整備された学校を目指す。
 - 防災訓練と物品準備、地域連携、地震対策等を進め安心で安全な学校を目指す。
4. 人権教育の推進
- 全ての人権が重要であるということを認識し、自他共に尊重する姿勢を養う。
 - 誰一人取り残さない学校を実現する。
 - 生徒、教員への人権研修の機会を積極的に設ける。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 (アンケート結果の A+B)	自己評価 (分析・課題・解決策)
1 学習	(1) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を養う。(1,5)	(1) ○学校の創立意義や教育目標の理解を図る。 ・全体集会 ・記念講話 ○目標をもって意欲的に学習する。 ・特別進学コース、総合コースの設置 ・オリエンテーション	(1) 生徒 63.4% 保護者 82.9% 教員 40.0%	●生徒の多様化とともに、学校の創立意義や教育目標が十分に周知できていないことが数字から考えられる。より明確に学べる機会として、各種記念講話や HR を通じて、正しい理解を持てるようにしていきたい。
	(2) 学ぶこと・働くことの意義を理解し、キャリアの視点を取り入れ、具体的な進路選択	(2) ○進路に関する情報が十分に手にいれることができるようサポートする。 ・各大学案内の掲示 ・国内外の大学説明会実施	(2) 生徒 71.1% 教員 66.7%	●語学に対する学習意識が高い生徒が多く、また、大学進学に向けて目標をもって意欲的に学習している生徒も多い。 学校では、生徒たちがコロナの時期を経た社会生活を経験する中で、協働して学ぶことの重要性を改めて知り、学習場面での取り組みに活かすように努力し、一人ひとりの可能性や良さを引き出すための取り組みを進めたい。
				●進路に関しては積極的に情報提供することに努めた。しかし、担当者だけでなく、教員全体としてより積極的に取り組み、生徒との相談、コミュニケーションの機会をしっかりと持つことでより高い希望を叶える進路選択に努めたい。

	<p>につなげる。(6)</p> <p>(3) 生徒一人ひとりにとって個別最適な学習を目標にかかげ、教育環境・教材を整え、教員の授業の研鑽を図る。</p> <p>(4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンス実施 ・各大学 OPS 参加の促進 ・外部大学合同説明会参加 ・個別相談の実施 <p>(3) ○ICT 機器を活用したわかりやすい授業をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改革の推進 ・教員研修 ・AI ドリルの試験的導入 monogusa 等 ・スタディサプリ導入実践 	<p>(3)</p> <p>生徒 80.8% 教員 83.4% 保護者 80.0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●韓国の有名大学から、直接説明会を開催していただけることは本校ならではの特徴でもある。 ●多くの発信を受け、概ね進路に関する情報は生徒たちに伝わっているようである。しかし、一人ひとりの自律した活動にはまだ課題があり、情報の活用の仕方と実践を、積極的に実施していく力を養う必要がある。 ●ICT を活用することが生徒たちにとって有益であることがわかる。今後も ICT 教材の可能性を追求し、有益な利用を通し生徒がわかりやすい授業になるよう教員全体で研鑽を積んでいきたい。
2 学 校 生 活	<p>(1) 多言語教育の推進とともに多様なルーツを持つ生徒一人ひとりが、互いを尊重し、社会の変化に対応できる資質・能力・創造性の伸長を目指す。(7, 15)</p> <p>(2) クラブ活動や生徒会活動・学校行事等を通して、主体性と協調性を培い、社会に貢献する姿勢を養う。(3, 8, 9)</p> <p>(3) スクールカウンセラーを活用し、生徒の悩みに対応する。(10)</p>	<p>(1) ○語学力が伸びていることが実感できるよう努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英検、韓国語能力試験、漢検 HSK 等の資格試験の積極的受検と成果獲得 <p>(2) ○楽しく充実した学校行事を企画できるよう工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会の活性化を通し、文芸祭、体育祭等を中心として生徒主体の行事への転換を図る。 <p>○学校生活のきまりやルールを守る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校改革チームを設置し、様々なトライアルを実施し、校則を考える基礎とする。 <p>○行事やクラス活動に進んで取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会の充実を図り、生徒による生徒のための活動を目指す。 <p>○クラブ活動を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化庁、スポーツ庁によるクラブ活動ガイドラインに沿った活動を実施する。 <p>(3) ○生徒が困ったときに親身になって対応する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任団制の特性を活かし、一人ひとりが相談しやすい環境づくりを行う。 ・スクールカウンセラーと連携し安心した学校生活の充実を図る。 	<p>(1)</p> <p>生徒 76.9% 保護者 65.7% 教員 100.0%</p> <p>(2)</p> <p>生徒 67.3% 保護者 80.0% 教員 72.3%</p> <p>生徒 84.6% 保護者 62.8% 教員 27.8%</p> <p>生徒 84.6% 保護者 60.0% 教員 61.1%</p> <p>生徒 79.0% 保護者 63.0% 教員 61.5%</p> <p>(3)</p> <p>生徒 70.6% 保護者 65.7% 教員 88.3%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●英検、韓国語能力試験、漢検、HSK などの資格試験を積極的に受験し、高校時代に資格を取得することが、語学学習の意識を高める一つのきっかけにもなっている。 さらに目標を高く持ち、語学力の向上だけでなく、多文化社会を牽引する人材の育成に寄与していきたい。 ●総合探究や生徒会活動を通じ、生徒たちがより主体的に学校行事にかかわっていただけるよう、教員がファシリテートしていきたい。 ●生徒会を中心に今年度はノーチャイムと、学業にふさわしい服装での登校を行うという2週間のトライアルを行った。その後、アンケートを実施し、改めて校則の見直しなどを図る良い取り組みとなったが、一方で学校としては十分な周知期間と保護者への説明等を丁寧にしていくことの課題が浮き彫りになった。生徒自身の自律心を引き出すための取り組みをするためにはクラスの全員とのコミュニケーション、意思疎通をしっかりと図る必要がある。このような機会、取り組みを、ホームルーム、総合の時間をはじめ、いろいろな授業の中から自然と培うよう、平素から意識して取り組みたい ●クラブ活動に対する生徒たちの満足度は一定の評価があるが、教員は生徒たちがその適正な活動時間、活動日を知り、実施することで、学校生活を見直し、バランスを保ち、より学習に向かう態度や姿勢の向上を図りたいと考えている。一方で、強化クラブ以外の一般クラブの活動の充実もコーチの導入等を検討しながら図っていきたい。 ●担任団制の長所を活かし、スクールカウンセラーと連携して、適切に生徒に寄り添うとともに、より一層、家庭との協力体制をしっかりと構築して行くことが必要である。 ●事後対応ではなく、未然にトラブルを防ぐ取り組みを積極的に取り入れていく必要がある。

3 学校環境	<p>(1) 一人一台のクロームブックを使用し、ICT 教育環境の常時充実を図る。(11)</p> <p>(2) 学習環境を整え、清潔で整備された学校を目指す。(12, 13)</p> <p>(3) 防災訓練と物品準備、地域連携、地震対策等を進め安心して安全な学校を目指す。</p>	<p>(1) ○学校施設を、活動しやすく充実させる。 ・新教育棟の建設 ・ICT 機器の作動に十分な Wi-Fi 環境の整備</p> <p>(2) ○学校施設を清潔に保つために進んで掃除する。 ・毎日清掃を生徒と共に実施</p> <p>○学用品や学校の設備を大切に使う。</p> <p>(3) ・防災備蓄品の点検及び入れ替え ・火災、地震避難訓練の実施と学習</p>	<p>(1) 生徒 74.0% 保護者 73.5% 教員 72.2%</p> <p>(2) 生徒 84.6% 保護者 88.5% 教員 66.7%</p> <p>生徒 96.1% 保護者 85.2% 教員 22.2%</p>	<p>●より一層 ICT 環境を整え、また教員研修等を利用し、新しい情報を積極的に習得していきたい。</p> <p>●新しく教育棟を設置したことで、更衣室、シャワールームなども設置され、防災備蓄品、体育倉庫、アクティビティルームなどの充実ができた。</p> <p>●実際に清潔を保つために清掃をする生徒と、指導する教員との意識差があるが、清掃を通して清潔を保つことの衛生観念の学習が、必要である。</p> <p>●学用品や学校の設備をたいせつに使っているという項目で生徒と教員との評価の差が大きい。「大切に使う」ということはどういうことなのか、生徒ときちんと共通認識が持てるようになっていくことが必要である。</p>
4 人権教育の推進	<p>(1) 全ての人権が重要であるということを認識し、自他共に尊重する姿勢を養う。</p> <p>(2) 誰一人取り残さない学校を実現する。</p> <p>(3) 生徒、教員への人権研修の機会を積極的に設ける。</p> <p>(2, 14)</p>	<p>○学校にいる時間が楽しくなるように工夫する。 ・LAD（生理公欠）の説明会実施 ・他校との交流、プレゼン ・ヤングケアラーの研究と発表（風船の会との連携） ・LGBTQ の研究と発表 ・ハラール食の研究 ・子ども食堂の奉仕活動 ・高齢者施設慰問</p> <p>○国際交流や様々な活動を通じ、人間として成長を促す。 ・済州フォーラム参加 ・韓国の中学校、高校、大学との交流 ・修学旅行で台湾訪問 ・交換留学 ・授業内での韓国の学校等とのオンライン交流 ・能登半島地震 募金活動</p>	<p>生徒 75.0% 教員 73.3%</p> <p>生徒 88.5% 保護者 71.4% 教員 77.8%</p>	<p>●本校の特色でもある多様な国籍を持つ生徒が在籍していることを活かし、文化や慣習、違う背景を持つことが当たり前であることを認識し、課題解決能力と相互理解に努めるための取り組みを積極的に行う。言葉の学習が他を思いやる心につながることを意識したコミュニケーション能力の育成、多文化共生の人材育成に努めていきたい。</p> <p>●本校では、生徒会の各研究活動を積極的に行う中で、生徒たちが学校内外に発表を行い、連携する活動が、生徒たちの人権意識を向上させる良い取り組みとなっている。この意識を全体化することと、より進化させることが重要である。</p> <p>●生徒はもちろん、教員の人権研修も積極的に行った。京都ウトロへの人権研修は訪問だけでなくその後の研修活動の課題とし、より知識や意識の深化につなげるようにした。今後も一つの研修に継続的に取り組むことで、理解の深化を図ってゆきたい。</p>

4 学校評価委員会からの意見 [2024年3月実施分]

【教育目標関連】

- ・急激な教育改革で、学校の創立意義や教育目標の周知がおろそかになっているように思われる。環境を改善し、創立意義、教育目標を教員や生徒たちが理解を深めることが必要である。

【学習関連】

- ・ICT 機器はおおむね効果的に使われていると思われる。教員へこまやかな研修をおこなうことにより、さらに充実させてほしい。一方で ICT 機器に頼り切るのではなく、教室にいる生徒たちの話し合いを通じて深い学びにつなげてほしい。

【学校生活】

- ・文芸祭や卒業式などの行事においては、教育的意義や目的、目標をきちんと伝え、生徒たちが同じ方向を向いたうえで、生徒に任せるといったことを大切に生徒に向き合うことが重要である。
- ・学校施設を清潔に保ち、大切にすることについて、生徒と教員間の差が大きい。特別活動等を通じ取り組み方を工夫し、生徒たち自ら行動することを促してはどうか。

【その他】

- ・昨年度から推し進められている学校改革について、拙速感がある。生徒や保護者ときちんと意思疎通をしながら進めていくことが重要である。